



名張市水道事業の 現状と課題

第1回上下水道事業運営審議会

開催日：11月20日15:00～



PRESENTATION
AGENDA



水道事業の概況



名張市の現状（ヒト）



名張市の現状（モノ）



名張市の現状（カネ）



名張市の課題

水道事業の概況

1. 水道事業の沿革

第4次以降

給水開始から
60年を迎える

水道の普及促進と量的確保

サービスの質的な向上

1963年
(S.38)

1972年
(S.47)

1980年
(S.55)

1991年
(H.3)

2001年
(H.13)

2010年
(H.22)

創設事業 第1次変更事業 第2次変更事業 第3次変更事業 第4次変更事業

- 1963年12月市議会において名張市上水道設置条例が可決。
- 1964年7月大屋戸地内で第一次建設工事に着手。
- 1965年2月に一部給水を開始。
- 1971年大屋戸浄水場の竣工

- 人口増加や産業の発展、生活水準の向上で、水需要増加。
- ”未給水区域の解消”を含めた安定供給を推進するために基幹施設の整備拡充を行った。
- 1983年富貴ヶ丘浄水場の竣工

- 災害時におけるライフラインの機能拡充と基幹施設の整備などサービスの質的な向上に取り組む。簡易水道等の整備・統合により、水道普及率は99.7%に達した。
- 計画一日最大給水量5万m³/日とした。

- 高度経済成長期に水需要増加。
- 取水方法を名張川表流水に変更、送配水施設の整備拡充を行い、計画一日最大給水量2万m³/日とした。

- 簡易水道の整備
専用水道の上水道への編入等で飲料水供給事業などを含め水道普及率は、これまでの74.7%から92.8%となった。

水道事業の概況

2. 名張市が目指す未来



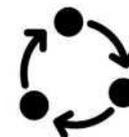
くらしと未来を支え続ける 名張の水道



安全で信頼される水道



災害に負けない**強靱**な水道



健全で安定的に
持続可能な水道

水道事業の概況

2. 名張市が目指す未来



くらしと未来を支え続ける 名張の水道



安全

- 徹底した水質管理の継続



強靱

- 施設・管路耐震化の推進
- 老朽化対策の推進
- 災害対策の強化

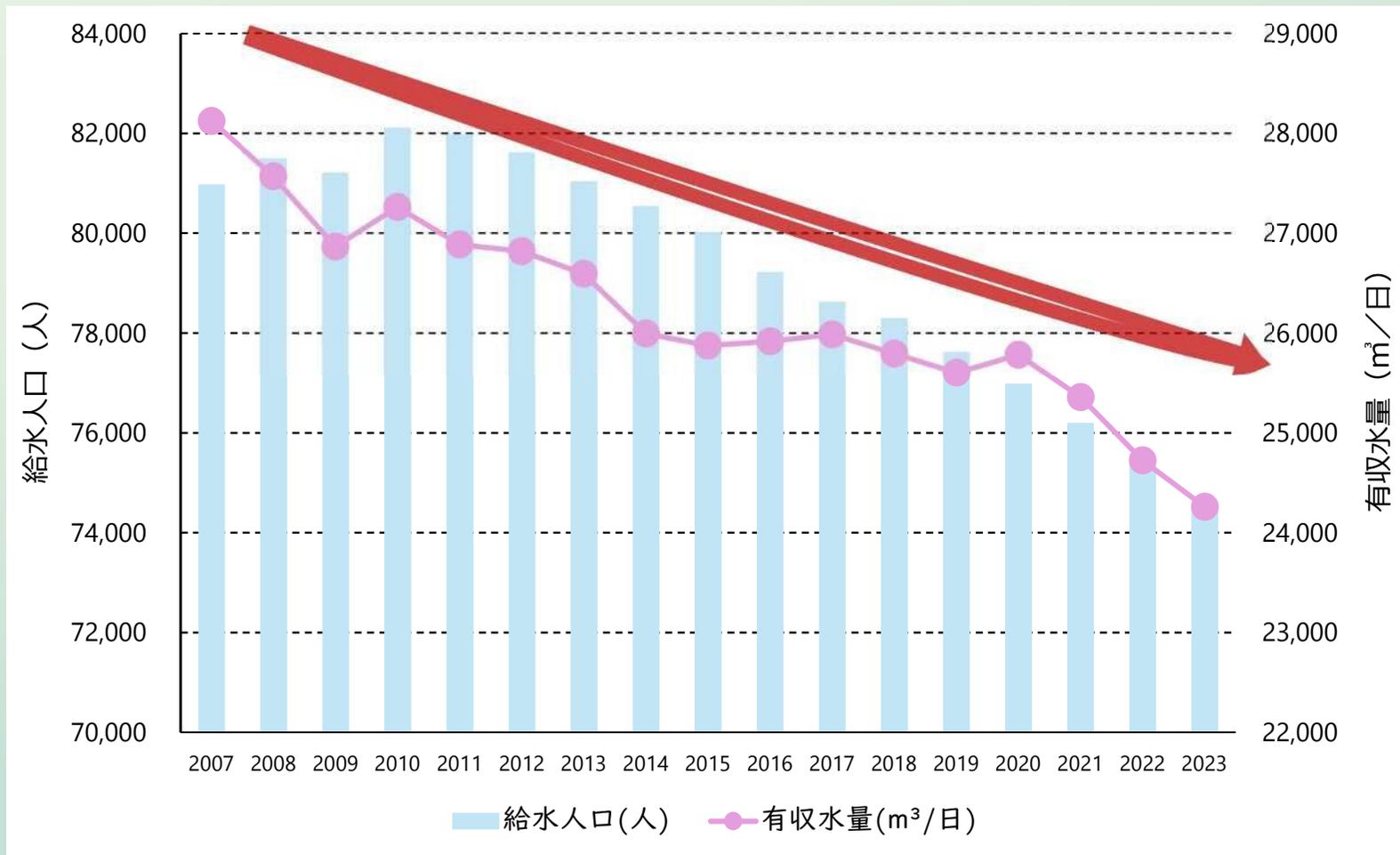


持続可能

- 中長期的な見直しに基づく財源の確保
- 組織力の強化
- 施設の最適化

水道事業の概況

3. 給水人口と有収水量



名張市の給水人口および有収水量は2000年代以降**減少傾向**にある。

水道事業の概況

4. 名張市の給水区域

- 事業創設以降、段階的に給水区域を拡張
- 計画給水区域の水道普及率は99.7%
- 創設時は桔梗が丘住宅地と名張市街地、蔵持、箕曲（一部）を給水区域として供給を開始しました。
- 第1次変更事業以降は、周辺地域・住宅地や工業団地・簡易水道・専用水道などを取り込む形で給水区域の拡張を行い、現在の給水区域となっています。

水道事業の概況

5. 水源

本市の水源は、大屋戸浄水場系、富貴ヶ丘浄水場系、長瀬浄水場系及び赤目浄水場系に分類できる。

系統	水源	取水地点	水利権水量
大屋戸浄水場系	名張川自流	大屋戸取水所	19,958 m ³ /日
富貴ヶ丘浄水場系	青蓮寺ダム	桜ヶ丘取水所	41,299 m ³ /日
	比奈知ダム		37,066 m ³ /日
長瀬浄水場系	名張川自流	長瀬取水所	168 m ³ /日
赤目浄水場系	滝川自流	赤目取水所	220 m ³ /日

水道事業の概況

6. 主な水道施設

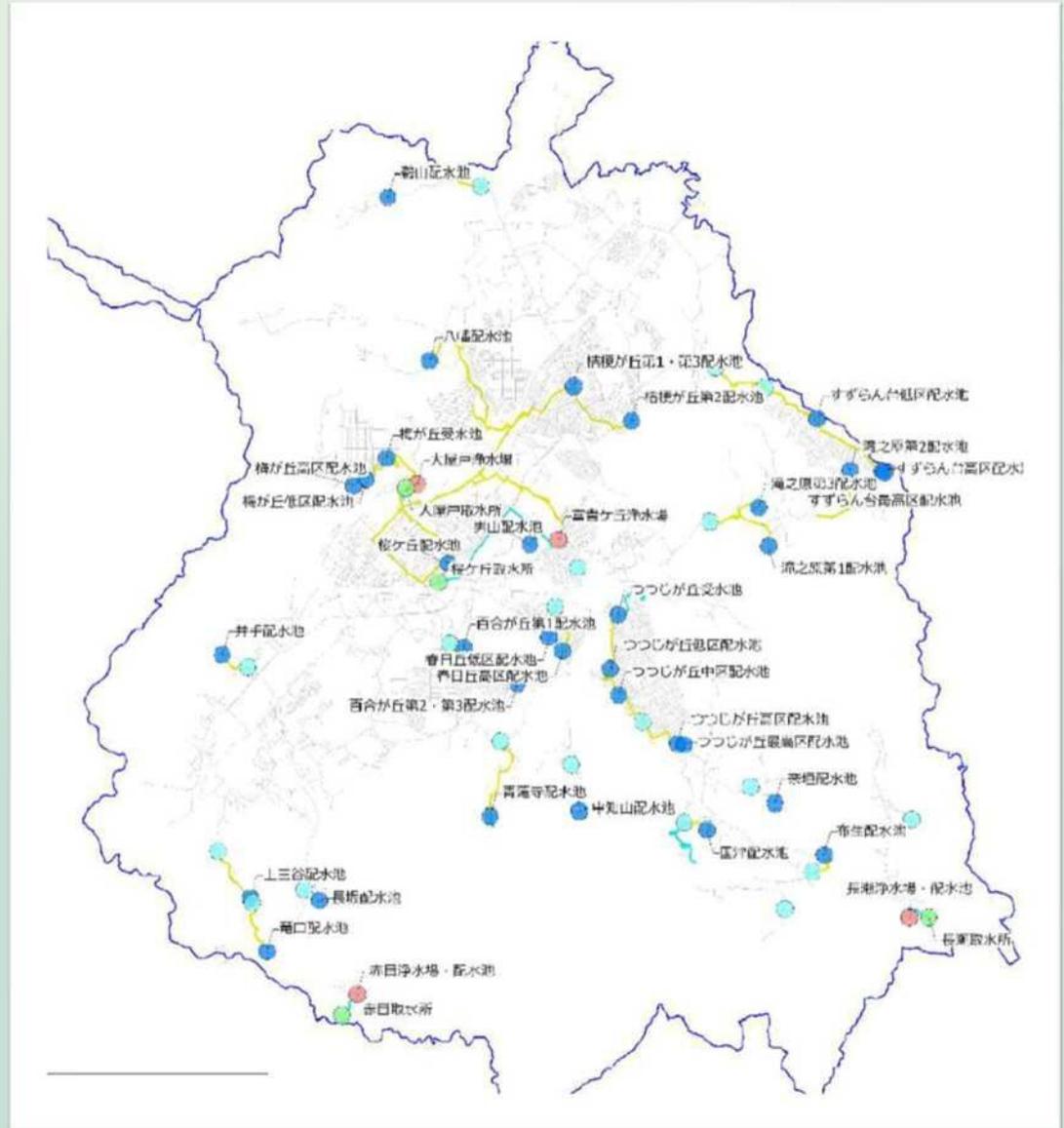
◎本市の水道施設の特徴は、**事業規模から考えて施設数が多いこと。**

多段階の送配水形態

- ・ 起伏の激しく標高が高い地形状況
- ・ 高低差のある住宅地開発



標高の高い中山間地域の
小集落への給水



水道事業の概況

6. 主な水道施設

富貴ヶ丘浄水場



大屋戸浄水場



名張市の現状（ヒト・モノ・カネ）

名張市の現状（ヒト・モノ・カネ）



事業規模から考えて施設数が多い

技術職員率 (%)



管理する施設数が多く、技術職員
の割合は他の事業体より高い

職員一人当たりの有収水量 (m³/人)



職員一人当たりの有収水量が多い
➡少ない職員で事業運営を行っている

出典：現状分析診断システム 2024、水道技術センター

名張市の現状（ヒト・モノ・カネ）

■名張市の職員数

取組目標

- ・職員研修の実施。
- ・技術者の育成
- ・組織体制を見直し、
効率的に事業を実施。

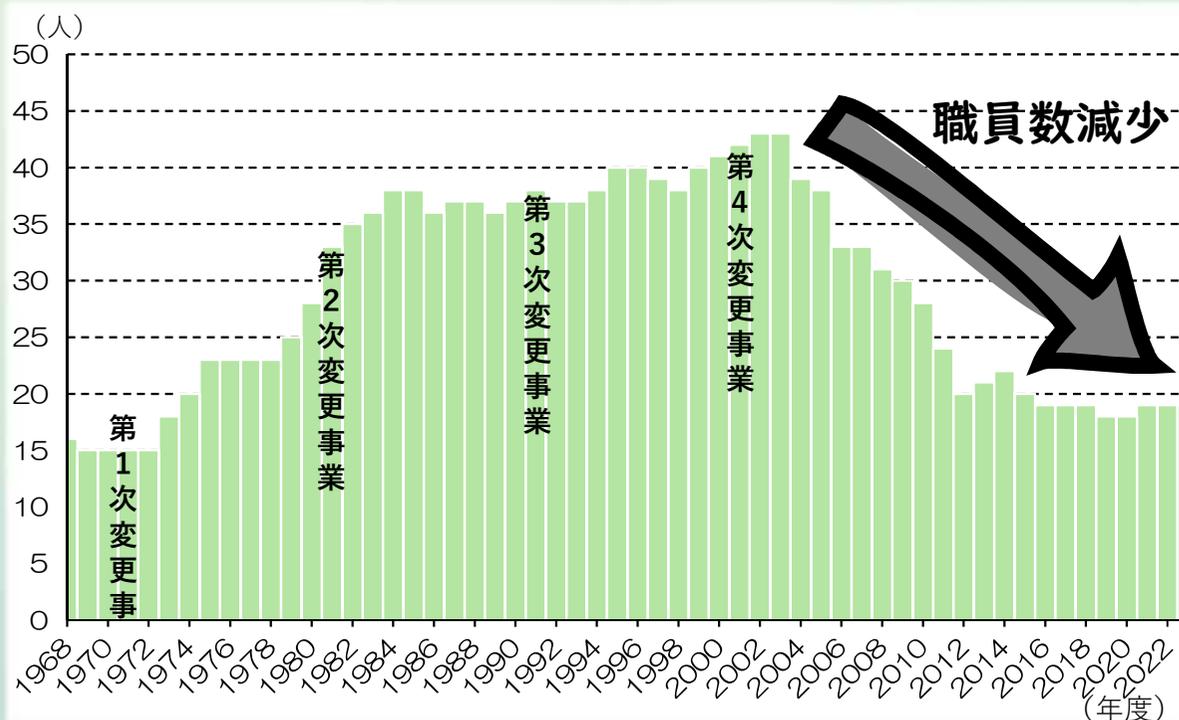


図 名張市の職員数の推移

課題

- ・人材確保が十分でない
- ・経験豊富な職員の退職により技術継承が必要

名張市の現状（ヒト・モノ・カネ）

特徴②

1990年以前に布設された管路が多い

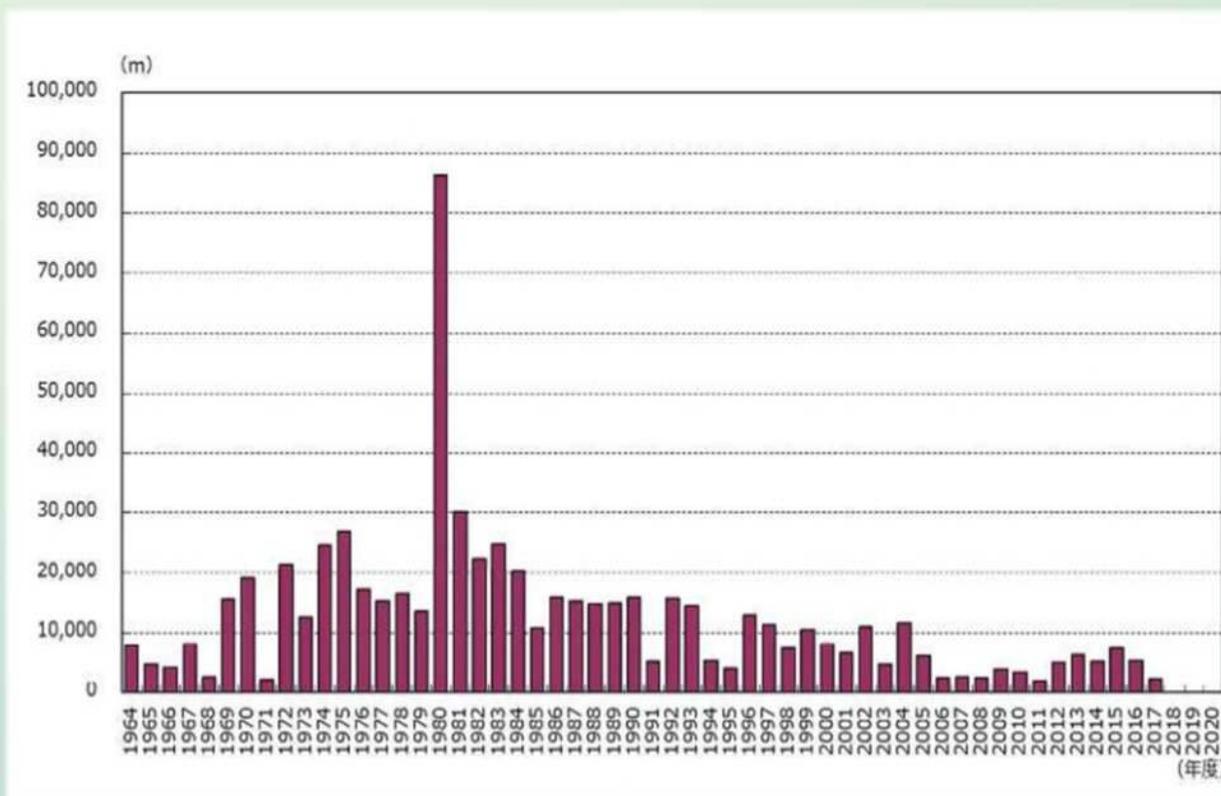


図 名張市の管路布設時期

名張市は…

- ・給水開始から60年を迎える。
- ・1980年に全管路延長の12%が設置。

名張市の現状（ヒト・モノ・カネ）

■管路の状態

取組目標

- ・老朽化施設の劣化補修
- ・施設の耐震化
- ・水質管理体制の充実

法定年数超過管路率（%）



出典：現状分析診断システム 2024、水道技術センター

課題

- ・水道施設および管路の更新時期に直面
- ・水道施設および管路の耐震化（延命化）への対応

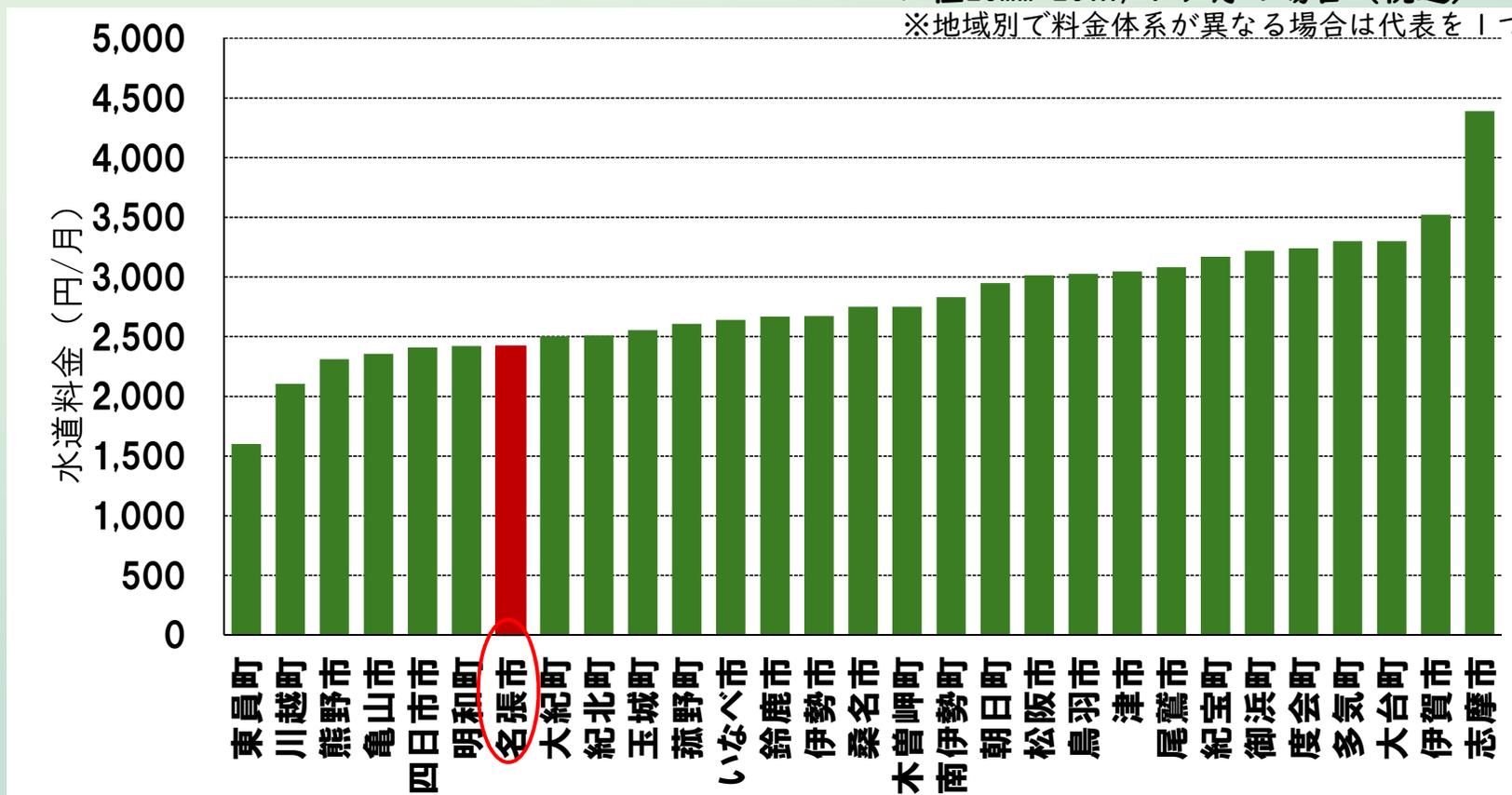
名張市の現状（ヒト・モノ・カネ）



比較的、水道料金が安価である

口径20mm 20m³/1ヶ月の場合（税込）

※地域別で料金体系が異なる場合は代表を1つ掲載

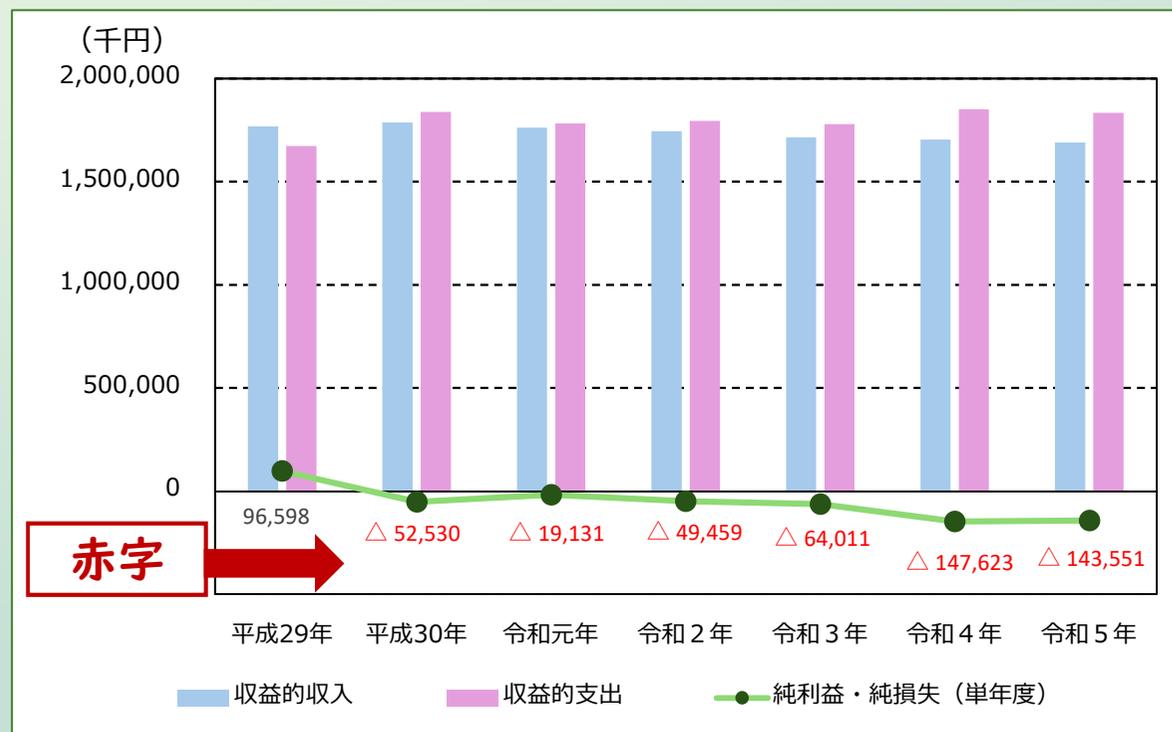


名張市の現状（ヒト・モノ・カネ）

■収益的収支

取組目標

- ・経営の合理化・効率化
- ・水道料金・体系の見直し
- ・収益的収入の確保



課題

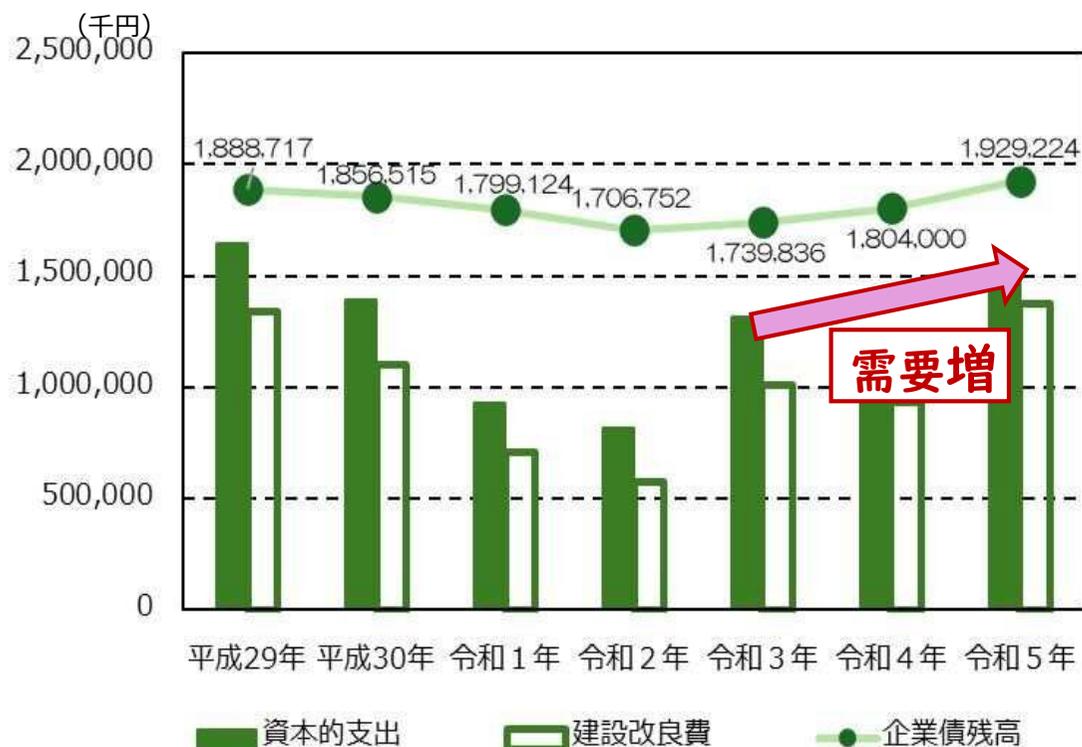
- ・単年度の赤字が平成30年以降継続している。
- ・水需要減少による給水収益の減少。

名張市の現状（ヒト・モノ・カネ）

■資本的支出と企業債残高

取組目標

- ・設備及び管路の更新需要が増加
- ・水質管理体制の充実
- ・資本的支出の平準化



課題

- ・更新需要が年々増加するため、資金調達が必要。
- ➡2031年度以降の10年で管路の更新費用がピークに。

名張市の課題

◆名張市が目指す未来実現に向けて



ヒト

事業執行体制の再構築



モノ

老朽化施設/管路
の更新



カネ

資金の確保



将来にわたって持続可能な基盤の強化を図るために…

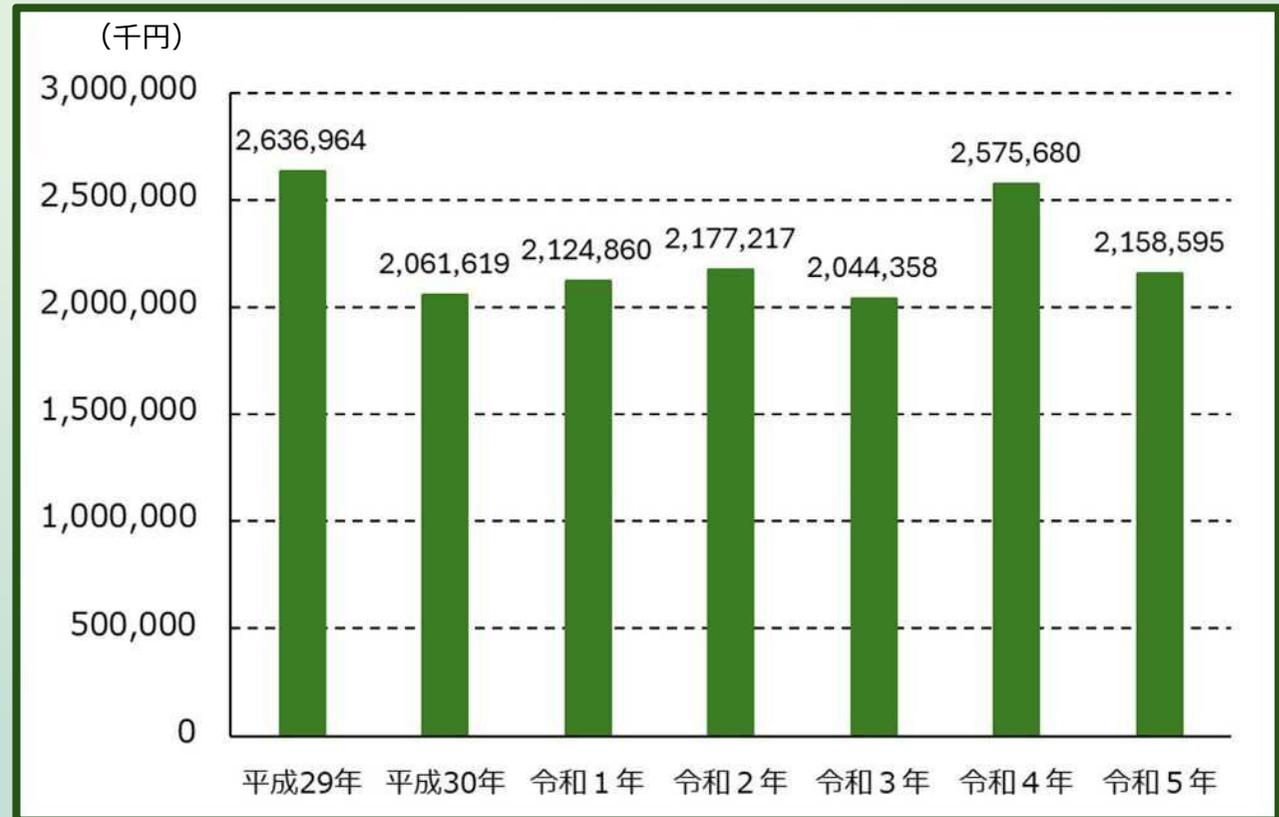
➡課題解決、つまり課題を対処する資金の確保が必要

名張市のカネ

■財源・財政（内部留保資金）

取組目標

- ・設備及び管路の更新需要が増加
- ・緊急遮断弁の整備
- ・水質管理体制の充実
- ・資本的支出の平準化



課題

- ・更新需要が年々増加するため、資金調達が必要。
➡2031年度以降の10年で管路の更新費用がピークに。

名張市のカネ

■財源・財政（内部留保資金）

取組目標

- ・設備及び管路の更新需要が増加
- ・緊急遮断弁の整備
- ・水質管理体制の充実
- ・資本的支出の平準化



課題

- ・更新需要が年々増加するため、資金調達が必要。
- ➡2031年度以降の10年で管路の更新費用がピークに。

水道事業の概況

1. 水道事業の沿革

第4次以降

給水開始から
50年以上経過

水道の普及促進と量的確保

サービスの質的な向上

1963年(S.38)

1972年(S.47)

1980年(S.55)

1991年(H.3)

2001年(H.13)

2010年(

創設事業

第1次変更事業

第2次変更事業

第3次変更事業

第4次変更事業

- 1963年12月市議会において名張市上水道設置条例が可決。
- 1964年7月大屋戸地内で第一次建設工事に着手。
- **1965年2月に一部給水を開始。**

- 人口増加や産業の発展、生活水準の向上で、水需要増加。
- ”未給水区域の解消”を含めた安定供給を推進するために基幹整備の整備拡充を行った。

- 災害時におけるライフラインの機能拡充と基幹施設の整備などサービスの質的な向上に取り組み。簡易水道管の上水道への統合、経営管理の一元化を行う。
- 計画一日最大給水量5万 m^3 /日とした。

- 高度経済成長期に水需要増加。
- 取水方法を名張川表流水に変更、送配水施設の整備拡充を行い、計画一日最大給水量2万 m^3 /日とした。

- “簡易水道の整備”
“専用水道の上水道への編入”
等で飲料水供給事業などを含め水道普及率はこれまでの74.7%から99.7%となった。



名張市下水道事業の 現状と課題

第1回上下水道事業運営審議会

開催日：11月20日15:00～



2024/11/20

PRESENTATION
AGENDA

● 下水道事業の概況

● 名張市の現状と課題



・ 経営戦略の策定

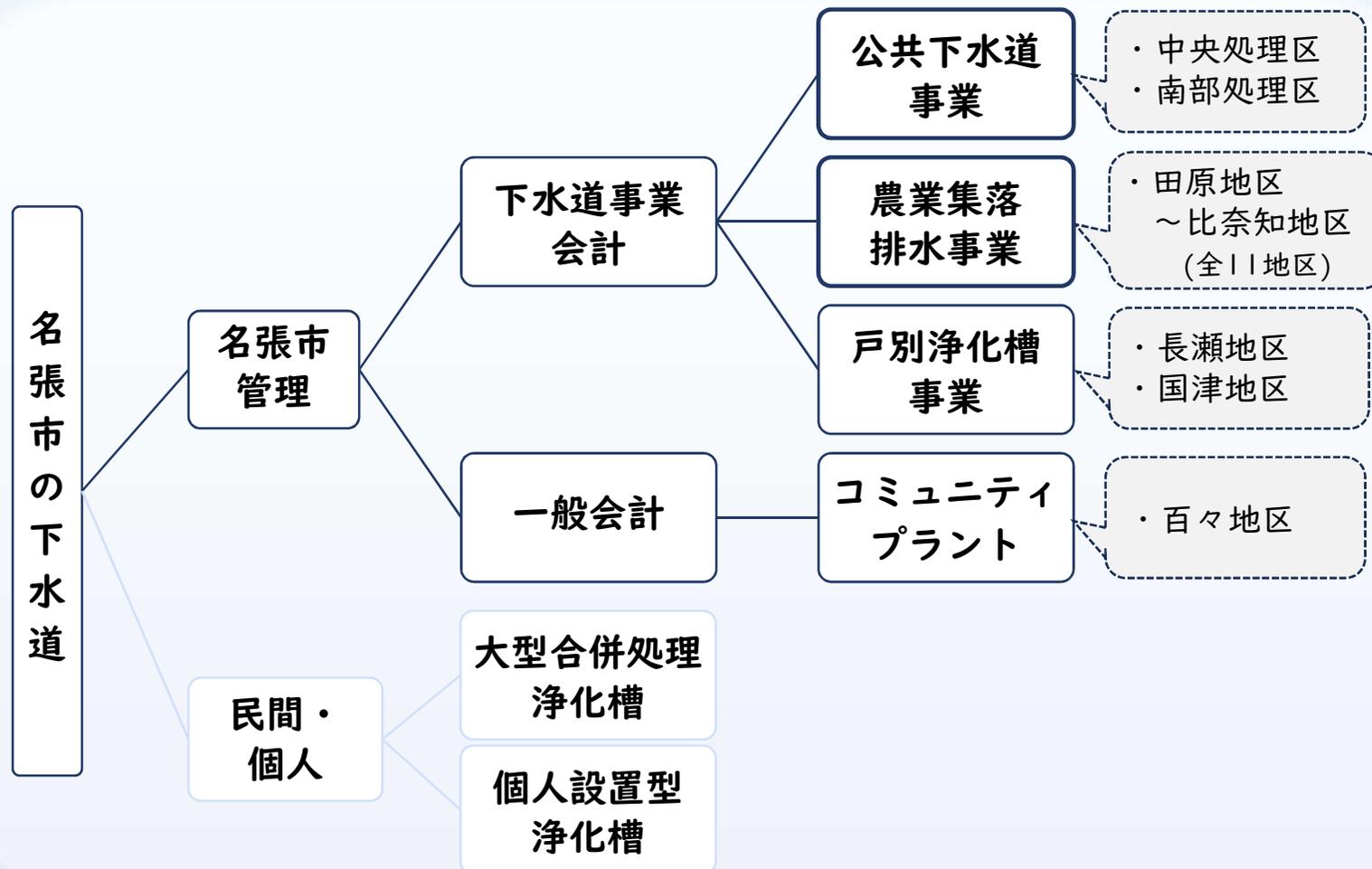


・ 投資財政計画

● 今後の下水道事業

下水道事業の概況

1. 名張市の下水道事業



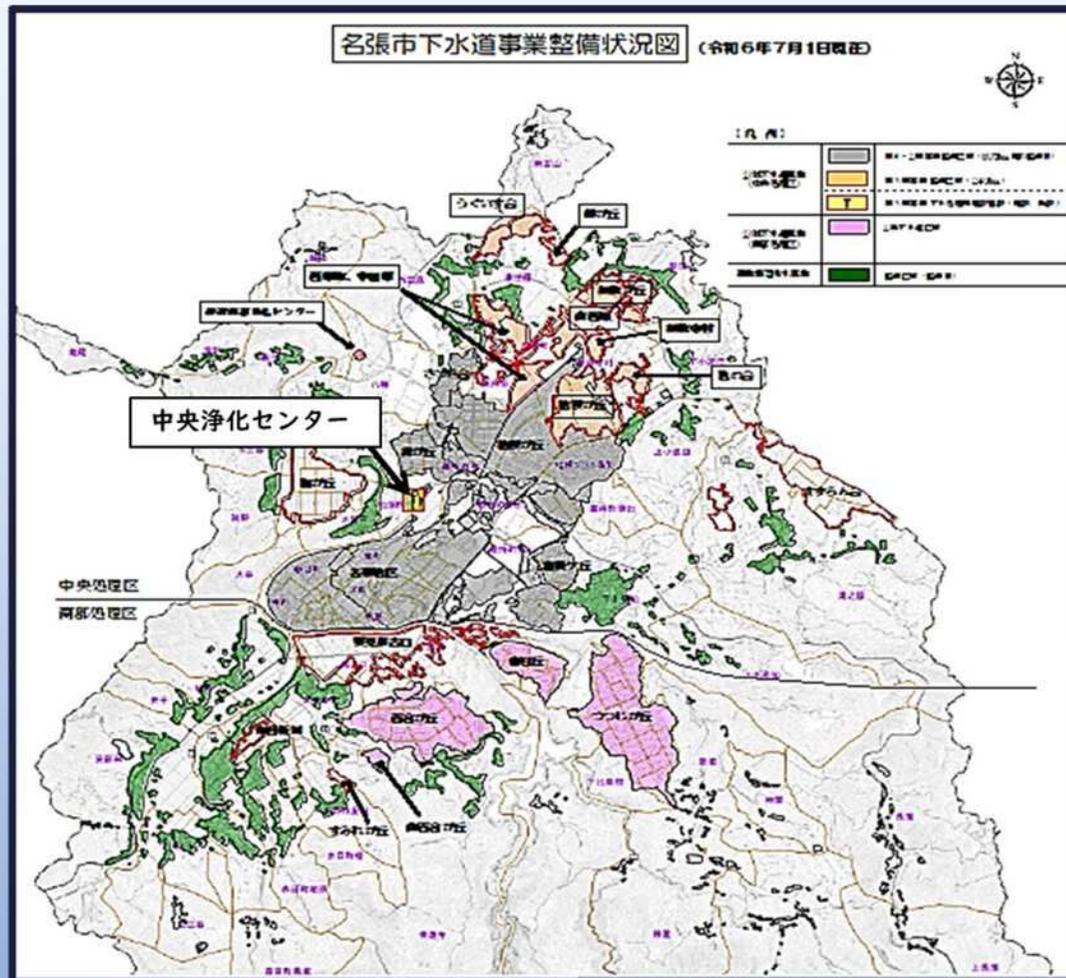
下水道事業の概況

2. 下水道事業の沿革



下水道事業の概況

3. 下水道事業の整備状況図



【凡例】	
公共下水道事業 (中央処理区)	第1・2期事業整備区域
公共下水道事業 (南部処理区)	第3期事業整備区域
農業集落排水事業	公共下水道区域

名張市の現状と課題

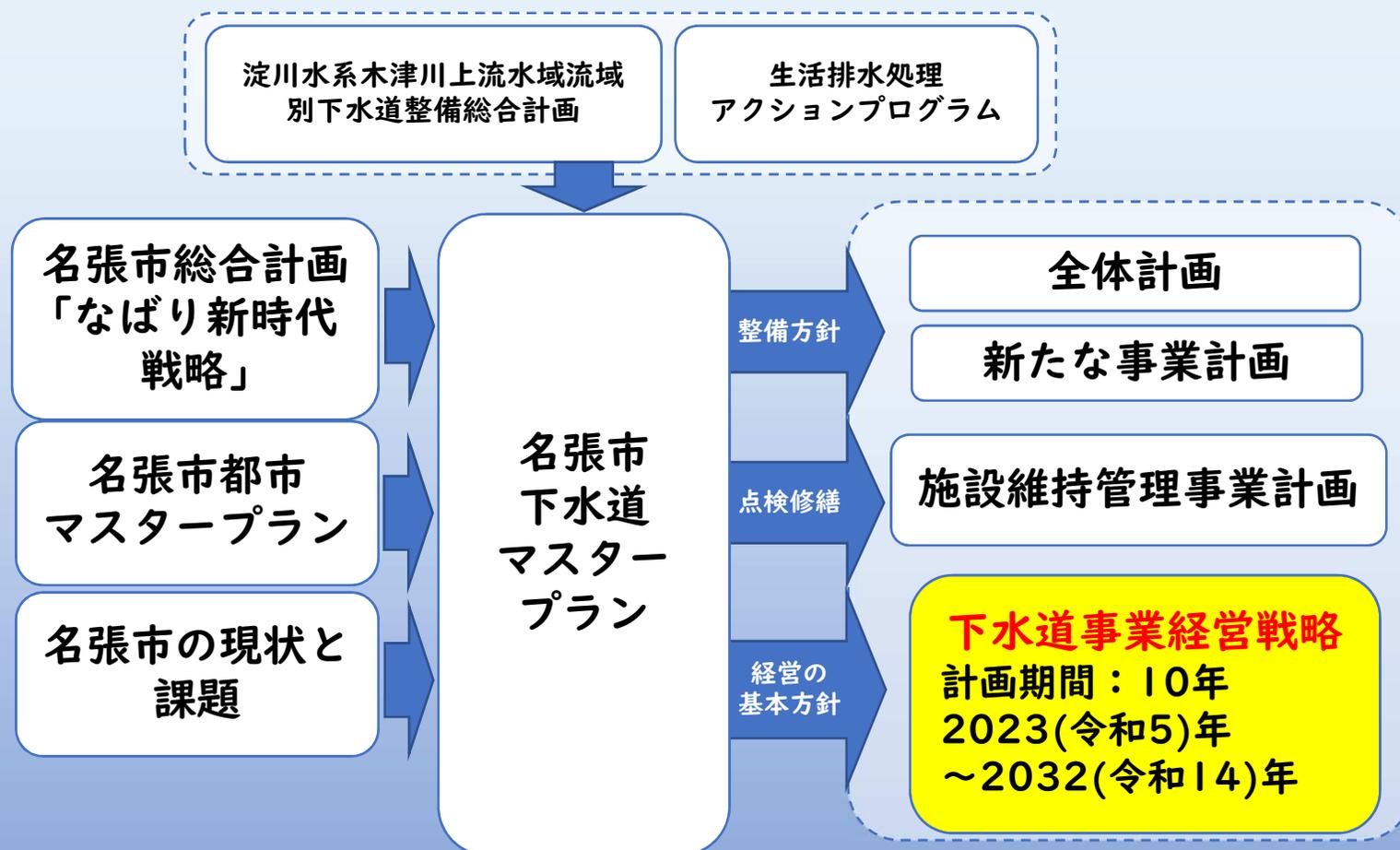


経営戦略の策定



投資・財政計画

1. 位置づけ



名張市の現状と課題



経営戦略の策定



投資・財政計画

2. 経営戦略の課題

事業の効率化

- ・ 有収率の改善
- ・ 維持管理費の削減

経営の安定性の確保

- ・ 安定した経営基盤の構築
- ・ 使用料の適正化
- ・ 施設利用率の向上

老朽化施設の更新

- ・ 事業の平準化
- ・ 施設の長寿命化

項目			2020	2021
有収率 (%)	公共 下水道	本市	88.30	90.34
		類似団体	94.30	94.50
	農業 集落排水	本市	96.20	98.96
		類似団体	90.10	88.80
汚水処理 原価 (円/m ³)	公共 下水道	本市	172.43	171.91
		類似団体	155.83	156.75
	農業 集落排水	本市	255.26	251.01
		類似団体	274.99	228.21
経費 回収率 (%)	公共 下水道	本市	100.00	100.60
		類似団体	97.53	95.92
	農業 集落排水	本市	67.47	68.88
		類似団体	57.08	67.23
施設利用 率 (%)	公共 下水道	本市	35.55	34.96
		類似団体	61.51	51.2
	農業 集落排水	本市	44.00	42.31
		類似団体	54.83	54.54
管渠 老朽化率 (%)	公共 下水道	本市	12.80	12.71
		類似団体	0.11	0.64
	農業 集落排水	本市	0.00	0.00
		類似団体	0.00	0.00

表 近年の事業状況

名張市の現状と課題



経営戦略の策定



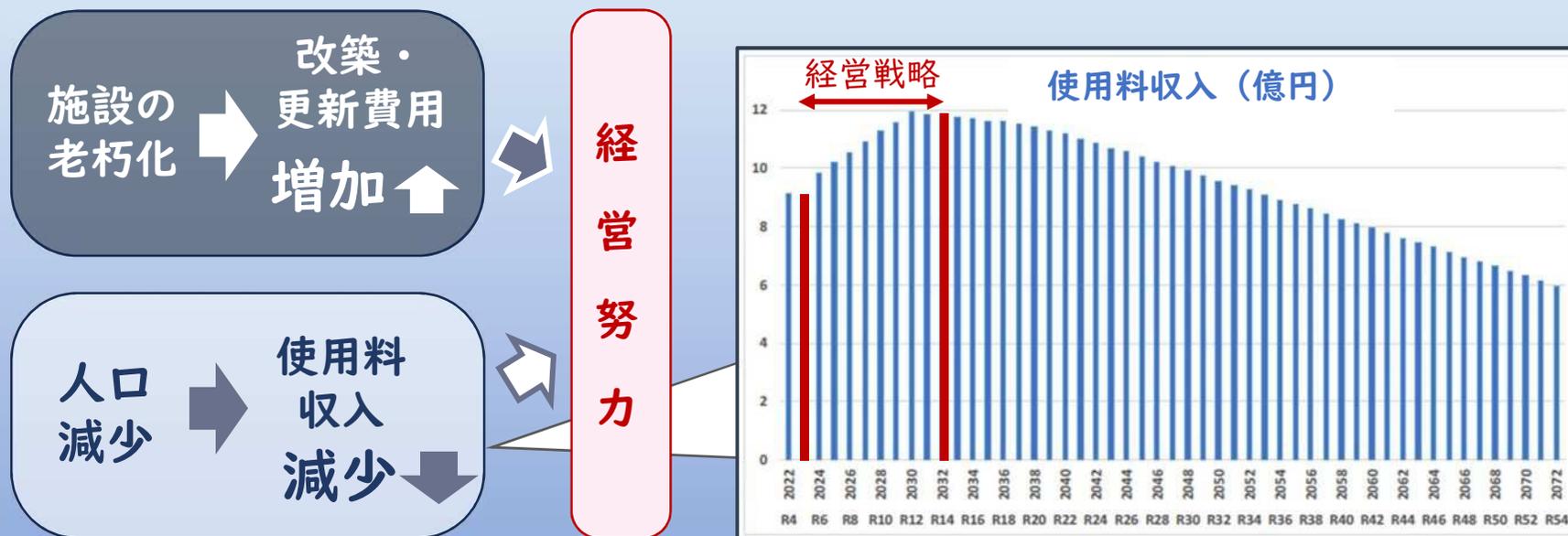
投資・財政計画

3. 策定の流れ

2017年 名張市下水道事業経営戦略策定

2020年 官公庁会計から公営企業会計へ移行

2023年 公営企業会計の観点から経営戦略の改定



名張市の現状と課題

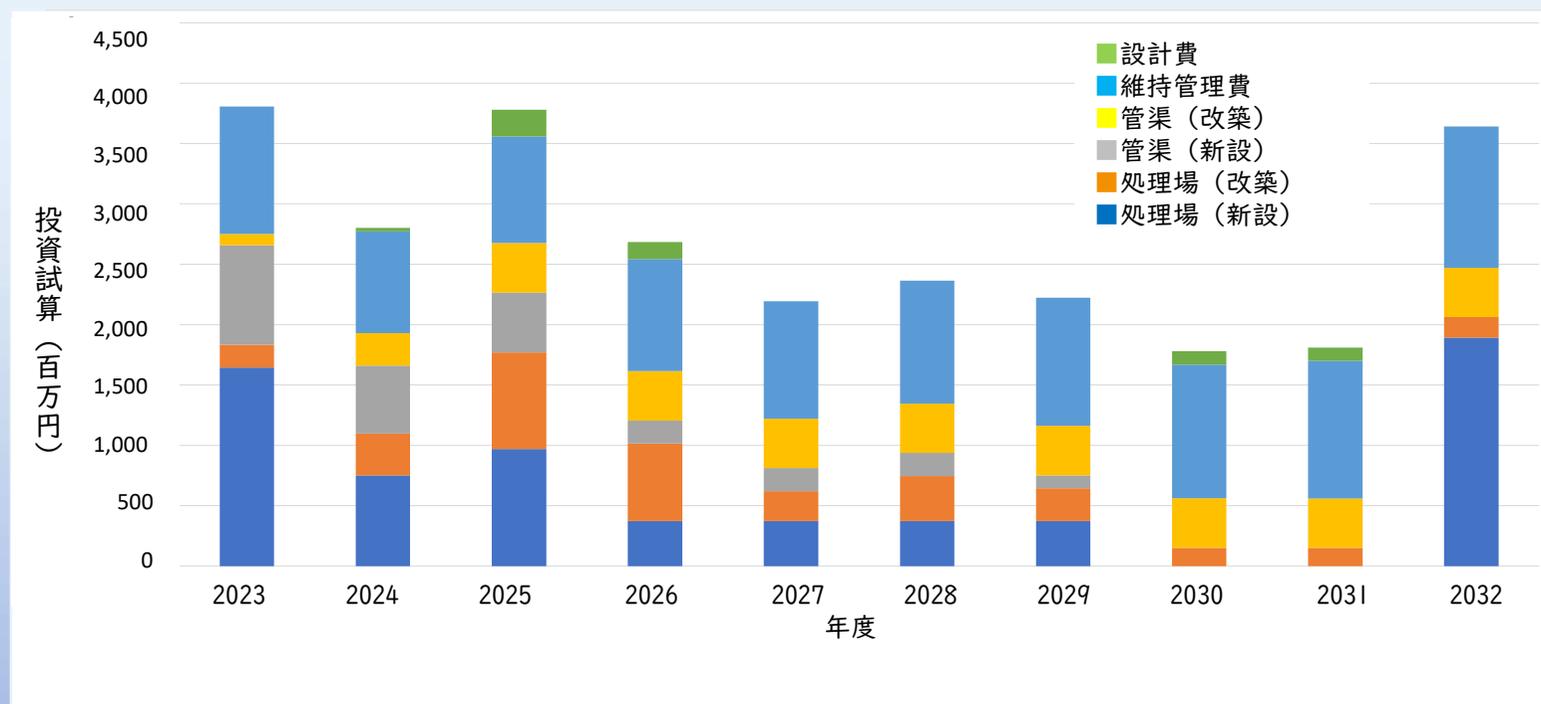


経営戦略の目標



投資・財政計画

1. 投資計画



- ・公共下水道全体計画およびストックマネジメント計画で掲げた、
処理場や管路の新設・更新、農業集落排水事業の機能強化事業を基に投資。

名張市の現状と課題

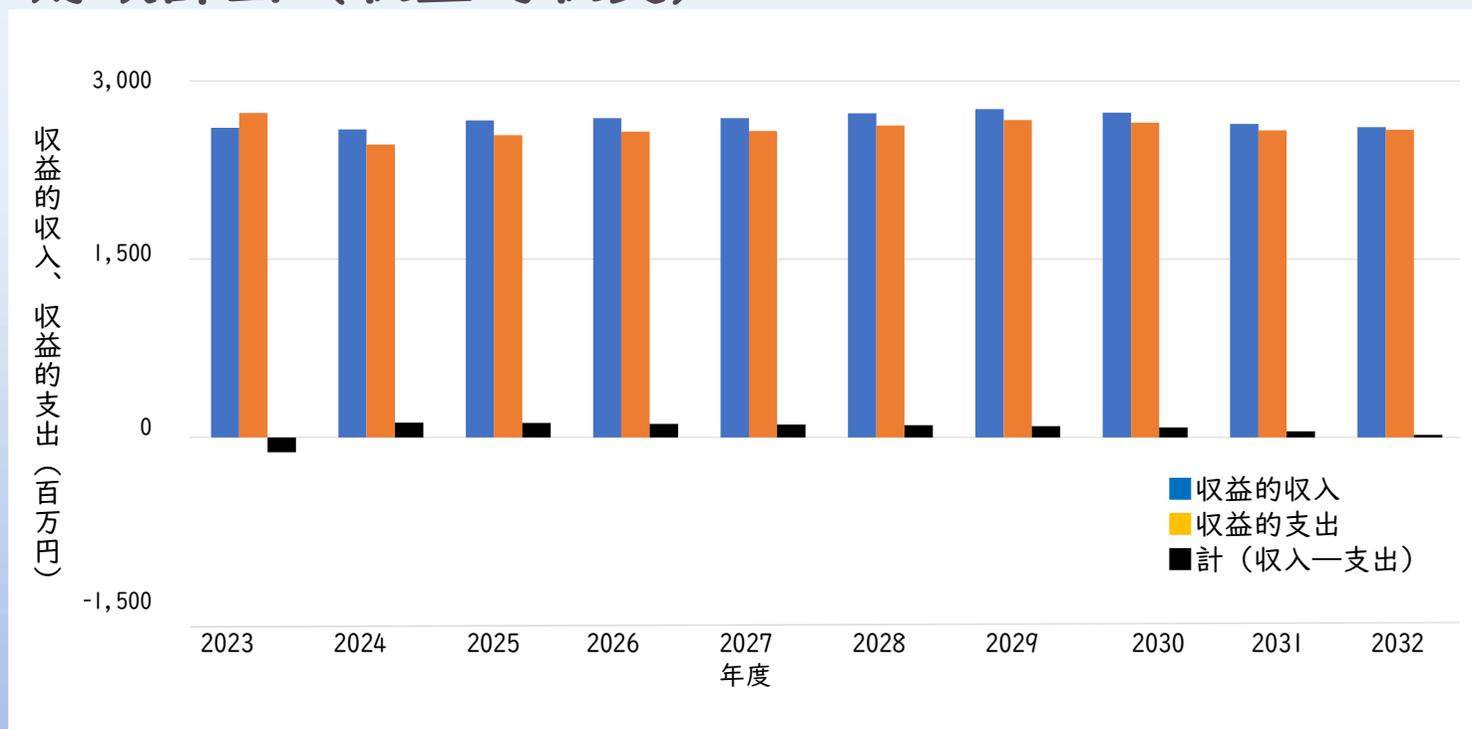


経営戦略の目標



投資・財政計画

2. 財政計画（収益的収支）



- ・ 計画期間である10年間の財政計画では、**収支のギャップは生じない。**
- ➡使用料改定の必要なし。

名張市の現状と課題

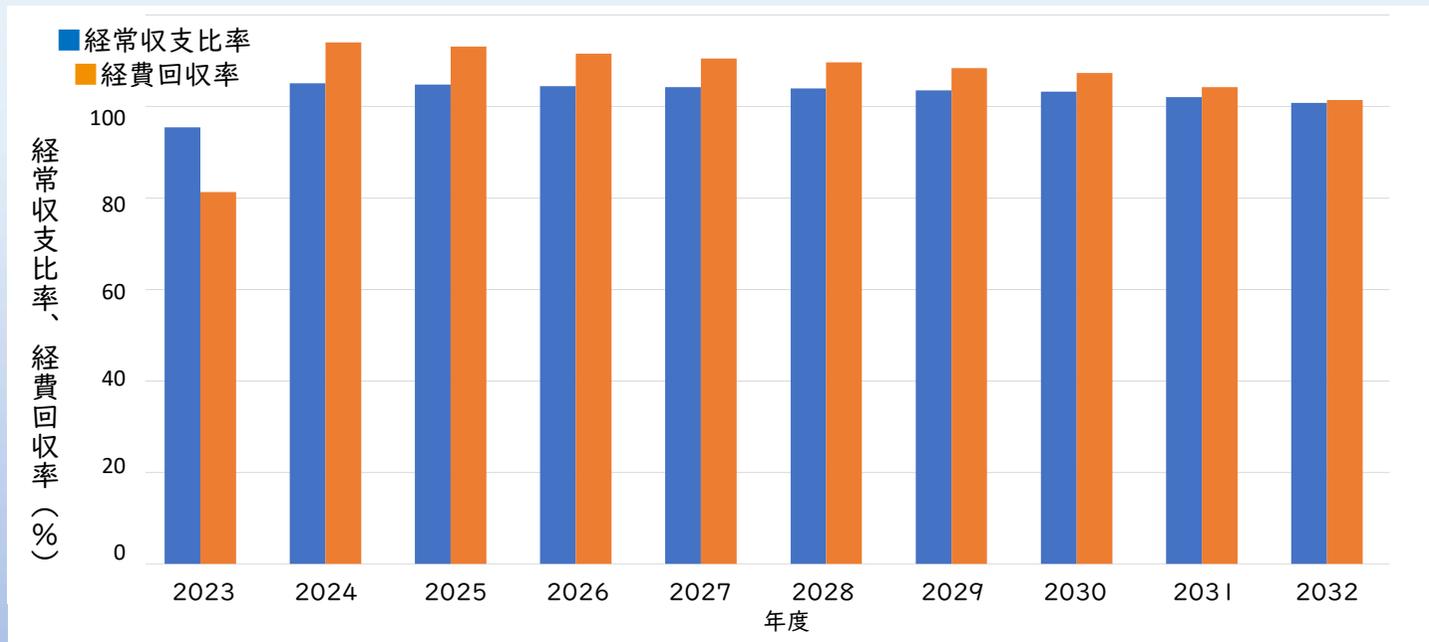


経営戦略の目標



投資・財政計画

3. 財政計画（経常収支比率・経費回収率）

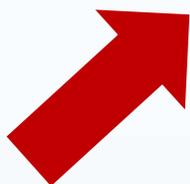


- 計画期間における経常収支比率は、**2024年度以降100%**を達成している。
- 計画期間における経費回収率も、**2024年度以降100%**を達成している。

今後の下水道事業

経営戦略より、
計画期間（今後10年）における名張市の財政は…

投資計画



収益的収支



経常収支比率
経費回収率



計画実現に向けて
「経営健全化の取組」
2027年：計画検証

